

平成29年度版 多忙化改善計画

学校名： 甲府西高

No	項目	H30年度に目指すべき状態	①H29年度に実施する内容 ②H30年度に向けて検討する内容
1	会議等の効率化	会議数の削減と、一つ一つの会議時間の短縮化。	①会議資料は前日に配付し、参加職員は目を通して会議に臨むことにし、提案者は大幅な変更点や注意点のみの説明とし、会議の進め方は質問を中心とすることで会議時間の短縮化を図る。各種委員会の参加者を精選する。 ②審議事項の提案に関係する部署が事前に連携をとって打ち合わせを行い、担当者がそれぞれの分掌や年次で説明すれば良いことについては会議を持たないようにしていきたい。まずは、運営委員会廃止を目指す。日常的に職員間で課題とその解決策について話をする文化を醸成する必要がある。
2	学校行事の負担軽減	3年間を見通した行事の体系化と精選。	①各分掌で行事について、本校の目指すべき教育の在り方から3年間を見通した行事の体系化を図るとともに、行事の精選について検討する。 ②分掌間で連携をとり、行事の在り方について検討する。
3	校内組織の見直し	実状に応じた分掌の設定。	①学校評価及び職員面接をもとに、実状に応じて分掌を再編成する。 ②縦割りの組織文化に対する職員の意識改革を図り、横につながることで、常に全職員が、学校のためにできることを考え、行動していく文化を醸成していく。
4	業務の効率化	人事担当より指導のある午後8時には業務を終了し、午後9時には完全消灯、完全施錠のうえ全職員が退校する。	①管理職による勤務実態の把握に基づき学校の課題を明確にする。 ①個々の仕事のマネジメント力を上げるためのスキルに関する資料提供を行う。 ②チームとして仕事をするに対する職員の意識改革を図り、職場に相互扶助の文化を醸成していく。
5	部活動の負担軽減	シーズン期とオフ期のメリハリをつけ、1年間を通して、納得のいく休日の活用ができるように、学校全体として部活動の負担をシェアしていく。	①放課後に部活動や会議等を実施しない「きずなの日」を設定し、早期退校を励行する。 ①常に複数体制で部活動の指導にあたるように生徒会を中心に配慮していくとともに、職員面接を通して、確実に休日がとれるように指導したり、次年度につながるアイデアを募ったりする。 ②職員面接や生徒の生活に対するアンケートをもとに、適材適所となるような顧問依頼を行う。専門外の指導をお願いする場合については、相談体制がとれるように、外部人材を活用することを検討する。
6	地域人材の活用	多様な場面で積極的に地域人材を活用する。	①職員面接において、地域人材の具体的な活用希望を聞き取るとともに、関連する分掌間において適宜話し合いを行う中で、活用に関する具体案を提示する。 ②予算措置、人材の選定方法、職員との連携の在り方等、具体的に活用するうえでの課題を一つ一つ検討していく。
7	生徒の主体的な学習の推進	本校の目指すべき教育の姿について全職員が共通理解をし、業務にあたる。	①教材の選定と精選。年次や教科を越えて職員が連携して情報交換をする中で、生徒の負担感や成績の伸びとの相関を調査しながら、課題量や小テストのバランスを図る。進路指導係を中心に3年間を見通した指導体制を見直し、全職員で共通理解をする。 ②生徒の主体的な学習、自主的自律的な学習姿勢の涵養を図るために、今までの教育活動を見直し、改善に向けての提案をしていく。また、生徒・保護者に対しても、本校の目指す教育方針への理解を促す啓発的な取組を検討するとともに、本校の教育方針を効果的に発信していく。
8	組織的な指導	一人に対応しているという感覚を持つことがないように、チームとして組織として様々な事象に対応する。	①生徒指導に関する情報交換を日常的に行うことができるような環境を整える。 ②指導が困難な生徒への対応に関するガイドラインの周知のための教員研修の実施を検討。生徒・保護者の客観的理解を促すための情報提供の在り方、内容に関する検討。